

工房 夢来夢来

む く む く

かわらばん

工房夢来夢来は狭山市
障害者団体連絡会の助成
金によって運営する在宅
障害者のデイサービスス
ポットです
月・水・金曜日開所

第15号 平成12年6月発行
狭山市狭山台4-25 狭山台南小学校内
TEL&FAX 042-956-5364
発行責任者 吉田幸子

もっと欲しい！！ 福祉教育

昨年10月社協に於いて小中学生を対象に福祉教室がおこなわれました。

工房夢来夢来からは車椅子、視覚障害者、歩行困難者が参加しました。子供たちがアイマスクをしたり車椅子に乗ったりして近所に買い物に行き障害者、介助双方の体験をしました。

- ① 社協近くの歩道のない道がどんなに危険か。
- ② 違法駐車車が如何に危険か。
- ③ 車や歩く人を妨げる電信柱に戸惑った様子。
- ③ 普段段差に関してはなんとも感じなかったが、車椅子では少しの段差も引っかかって危険を感じる。

などの感想を語ってくれました。

昼食を子供たちと一緒に取る事によって私たち障害者の生活の一部を垣間見ることが出来た^まのではないかと思います

子供達からの質問では、(どうして障害者になったの?)という素朴な質問に「はっ」とさせられながらも素直に答えられたことで子供達との距離が近くなりました。

子供達と仲良くなるにはそう時間はかからないのだから、もっと福祉教室を開いて私たち障害者を知ってほしいです。そして子供達が街に出かけたとき、ごく自然に「何か、手伝うことはありませんか?」という言葉が出てくるやさしい心が生まれてくるのではないのでしょうか。

また工房夢来夢来に於いても狭山台北小学校の5、6年生が福祉授業の一環として訪れ私たちと一緒に作品作りに取り組みました。

昨年の「みちくさバザー」では狭山台中学校の生徒さんが荷物運びでお手伝いをして下さり私たちにとっても大いなる助っ人となりました。

こうして子供たちとの交流が盛んになってきています。学生のうちから福祉教育を受ける事により、ノーマライゼーションの必要性を自然に学んで欲しいと思っています。

初めての海外旅行…フランス・パリ

田中 寿子

去年、田内さんから海外旅行のお誘いがあり私は1つ返事で行きますと答えました。

行き先は、な　な　なんとおしゃれな町パリ…

それから私はパリの地図を見たり、海外旅行経験者の話を聞いたりしていました。

(聞く話は私を不安にさせる事ばかりでした。まあ、周りからみるとそんなに浮かれていると痛い目に合うよという忠告だったのかも知れないと今になって思いますが…また後で書きますが、実際にすりに合いそうになりました。)

そうこうしているうちに夢の海外旅行が現実になる日がやってきました。

日本からパリまで12時間。ちょっと飛行機で過ごす時間が長いけど、これから始まるパリ旅行、12時間の時間なんて何のそのという気持ちでした。

パリに到着した日は、4日間宿泊するホテルへ…面白いことに、空港に到着した際私はパリに着いた実感はなく、ホテルのレストランで食事をした時フランス語の書かれたメニューをみて初めてパに着たんだなあという気持ちになりました。そして、ウェイトレスの人に「どれにしますか？」と言う風なフランス語で聞かれて答えてくれた人はいたけれど、私の気持ちは、日本語で「えーととか、うーんと」と答えていた様な気がします。おっと、ここはフランスだと私1人で苦笑い。

翌日は、バスに乗り市内観光。びっくりしたのは、道路の交通状況でした。日本みたいに道路の真中に斜線はなく、右に曲がりたい車は強引に割り込んでいく

という感じなのです。だから、凱旋門の周りを走る車は強引に外側へ出て行かないといつまで経っても内側の凱旋門の周りを回っていないといけないという無茶苦茶な道路でした。

無茶苦茶な道路とは打って変わり、町の佇まいは素敵でした。外観は王宮の様で夜は町全体オレンジの街燈で統一されていて建物にはライトアップ… ホント、うっとりしてしまうような町並みでした。(外観は、王宮でも内装は住みやすい様になおされているそうです。)

さて、ノートルダム寺院、ルーブル美術館、ベルサイユ宮殿、モン・サンミッシェルと有名な観光地に行きましたが、中でも一番印象に残っているのは、モン・サンミッシェルです。何故？モン・サンミッシェルかということノートルダム寺院、ルーブル美術館、ベルサイユ宮殿等は、私にとって緊張な場だったからです。行く前から、スリには気を付けなよといわれていた私にとって(きれいだなあ)なんて見ているよりも周りをキョロキョロ…

あ、そうそう初日の日にバックを下げた行きあまりにも私がスリに狙われていると気づき次の日からは手ぶらで行動しました。私のような障害者が、パリの町を1人で歩いたらそれこそ狙ってくださいと言っているようなものです。(あーこわい)

話しはモン・サンミッシェルに戻りますが、朝6時30に朝食を取り7:00には出発…7:00だというのに外は真っ暗。日本時間でいうと5:00か？6:00頃…。ホテルの近くには学校があり、まだ薄暗い中校庭でジョギングしている生徒

の姿が不思議と印象に残っています。

明るくなったのは、バスに乗り1時間30分経った8:30頃だったと思います。

辺りが見渡せる様になってからの景色はパリの町とは変わり、庭のある1軒家が多く広い野原には羊や牛がいました。そんな風景を見ながら、目指すはモン・サンミッシェル。

片道4時間かかり着いたモン・サンミッシェルは私のお尻の痛さなど吹っ飛ばくらい素晴らしい姿を見せてくれました。その日の天気は快晴。添乗員の話によるとこんなに良く晴れて遠くから見えるのは珍しいといわれて大感激。運が良かったんだねと口をそろえて言い合いました。モン・サンミッシェルは、津波によって周辺の森がすべてのみこまれ砂地に浮かぶ島となってしまった修道院。沢山の階段を上がり中へ入ると僧侶達が司教座からの説教を聴きながら食事をした食堂。祈りをささげる教会。薄暗い暖炉。

外から見たモン・サンミッシェルは大地に「でん」とかまえて大きく見えたけど各部屋を見て当時の生活を肌で感じてからは、とても小さく感じました。

再び、バスに乗り4時間かかりパリ市内へ… こうして、予定されていた観光地をすべて見て周りましたが、個人ではスーパーでの買い物。たぶん皆さんは、フランスに行ったのだからおいしいフランス料理を食べたのではと思った人はい

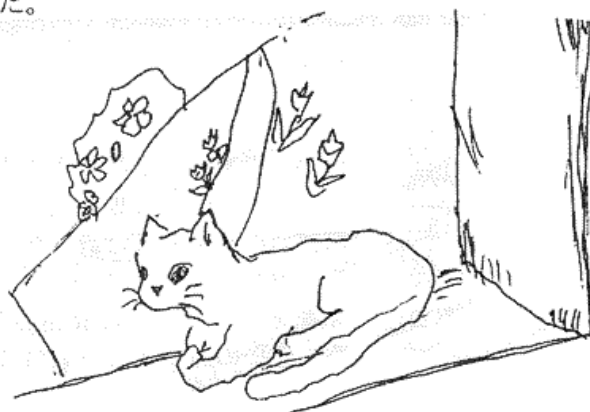
ると思いますが、実は…味が濃く、唯一美味しかったのはパンでした。料理に関しては、私には日本料理が1番でした。(一緒に行った人達は、どう思いましたか?)

ということでスーパーで夕食の買い出し…まるで小さい子供がはじめての買い物に行くみたいに心ワクワクする気持ちでいきました。ここで私の反省点…私のボランティアに姉に行ってもらったのですが、バックをさげているとスリに狙われてしまうので、お財布は姉に預けてしまいました。だから、何か物を買うときは姉にまかせていたので「このお札は日本円でいくらなのか」分からずじまいでした。情けない… 今回の旅行では、姉に頼りすぎたかな…これも反省点です。

次に私達グループは、ちょっとおめかししてオペラ ガルニエという会場へ行きバレエ鑑賞をしました。バレエのことは分かりませんでしたが、おしゃれな気分を味わえとても良かったです。

いよいよ、パリ旅行も最後の日になり「もうちょっといたいね」と言い合いながら一番行きたかったエッフェル塔、のみの市に行きました。

こうして、もう一度読み返してみると海外旅行など初めてで不安ばかりでしたが、海外旅行は、私にとっては「まだまだ」というやる気を与えてくれた旅でした。



ふれあい広場 (5月14日)

吉田幸子

5年目を迎えた工房夢来夢来も今年はふれあい広場に参加し模擬店を出すことができました。初めての事でどのようになるのか、当日までの運び、天候にととても心配しましたが何の問題もなく大成功で無事終わりました。ご協力ありがとうございました。

私は名刺印刷を宣伝しながら、お手持ちの名刺に名前の点字サービスをしておりました。今までの私は、ふれあい広場といえばお客様の立場として参加しておりましたが、今回は立場が変わり、お客様を迎える方になりました。

とても気分が変わり楽しい1日になりました。

50の手習い

藤重良水 (視覚障害)

小生は点字ワープロを学んでいます。

タイプで打つと普通文字に変換され、全ての操作が音声でガイドしてくれるすぐれものではありますが、なにせ五十路の手習いですので、なかなか上達しないんですよ。

この「夢来夢来」という所はですね、互いにボランティアの精神を学ぶ所でもあるんです。健常者が障害者に、障害者が健常者に。それぞれの価値は違ってても人の役に立てる喜びの価値には隔たりはありませんものね。その思いは1年過ぎた今でも変わりはありません。

家に閉じこもりがちな仲間達、あなたもボランティアごっこをしてみませんか？そして、友達の輪を広げてみませんか？是非一度コーヒーでも飲みに行かせて下さい。市長になり代わりましてお待ちしておりますよ。

月曜ニュース

月曜日の作業はパソコン・文化刺繍・洋裁です。パソコンでは名刺づくりが主流になってきました。

時間はかかりますが楽しく作業しています。

御寄贈

ありがとうございました

北入曾	三宅様	古着
飯能市	久保様	セロテープ
上広瀬	橋本様	和服
中央	高橋様	毛糸・服地
イルマニット様		ニット製品

編集後記

今年の夏もかなり暑そうです。

このまま温暖化現象は続いていくのでしょうか。

環境のためにも車は避けたいのですがここでは車は必需品。

車がないとほとんど動けないのが現状です。障害者自主運営ではハンディキャブを持つのは高嶺の花なんでしょうか。キャブとか福祉バスとか乗り合いの方がずっと効率はいいはずなのですが。

